

Q-SYS Designer Version 5.3 Release Note

注意

今回の Q-SYS Designer では多くの変更と追加を行いました。内容につきましてはよく確認して頂く必要があります。バージョン 4.2 より前のバージョンからアップグレードする場合は必ず本書をお読みください。

また今回のアップデートはメジャーアップデートになります。インストール済みのシステムを更新する場合はシステムに重大な影響を及ぼす可能性があるため特に注意してください。アップデートを行う前にシステムの変更点を確認し、必ずバックアップを取ってください。一度アップデートしたデザインファイルをバージョンダウンすることは出来ません。またバックアップをしたファイルへの上書きを避けるためにバックアップしたファイルは新しいバージョンのソフトウェアで開かないようにしてください。

ソフトウェア要件

Q-SYS Designer は下記の OS での動作確認をしております。

- Windows 7 Professional 32-bit / 64-bit
- Windows 8.1 Professional 32-bit / 64-bit
- Windows 10 Pro 64bit

※Windows XP および Windows 8 Pro 32-bit / 64-bit での動作確認は行っておりません。

Q-SYS Designer をインストールするためには下記のソフトウェアパッケージが必要です。

- Microsoft .NET Framework 3.5 (自動でインストールされます)
- Microsoft .NET Framework 4.0 Client Profile (自動でインストールされます)
- Microsoft .NET Framework 4.0 Extended (自動でインストールされます)
- Microsoft Visual C++ 2010 Runtime (自動でインストールされます)
- VLC Media Player (オプション / WAN Streaming コンポーネント使用の場合)

新しいコンポーネントの追加

Q-SYS Designer 5.3には多くの変更と追加があります。またこのリリースにアップグレードする際に注意が必要なコンポーネントもあります。現在の設計に大きな影響を与える可能性がありますのでアップグレードする前に必ずデザインファイルのバックアップを取ること、ソフトウェアを使用して理解した後アップグレードを実行してください。

Inventory Components

• AES67 Tx と AES67 RX コンポーネント

AES67 を送受信するためのコンポーネントを追加しました。

AES67 はハードウェアやライセンスの追加コストをかけずに Q-SYS とサードパーティー製品 (DANTE や Ravenna) の間で高性能なオーディオストリーミングが可能です。

Plugin Components

• SHURE MicroFlex Wireless コンポーネント

SHURE 社の MicroFlex Wireless シリーズを Q-SYS 上でモニタリングおよび設定を可能にするプラグインが追加されました。

• SHURE MXA910 コンポーネント

SHURE 社の MXA910 を Q-SYS 上でモニタリングおよび設定を可能にするプラグインが追加されました。

Q-SYS Designer のコンポーネントの変更

Inventory Components

• TSC-7t Touchscreen コンポーネント

USB Audio Bridging の Properties の設定項目を変更しました。

* USB Audio Bridge セクションの追加

* USB Bridge に名前を追加することができるようになりました

* 選択項目を追加しました。

- Disable
- Speakerphone (1x1)
- Soundcard (2x2)
- Speakerphone & Soundcard

※Speakerphone および Speakerphone & Soundcard を選択した場合に Speakerphone にエコーキャンセラーをかけるモード (EC) とエコーキャンセラーをかけないモード (NEC) を選択できます。

Status コンポーネント内の Configuration タブ内のスクリーンコントロールにマニュアルボタンを追加しました。ON / OFF / Dim を選択できます。

・ Q-LAN TX / Q-LAN RX コンポーネント

Q-LAN TX / Q-LAN RX コンポーネントを2つのタブに分割しました。

Stream タブにはオーディオコントロール、ステータス情報、接続セクション情報が含まれております。Details タブにはストリーム情報と各 LAN のリセットボタンが表示されます。これにより Verbose プロパティを削除しました。

・ Core250i / Core500i コンポーネント

新しく Maximum DSP 機能を追加しました。この機能を使用することでいくつかの機能を削減し、他の機能を追加するオプションが可能になります。この機能が “No” に設定されている場合に Core は下記の通り変更されます。

- ・ DSP パワーが 1/2 に制限されます
- ・ カテゴリー 1 の信号処理のみ使用可能です (カテゴリー 2 は使用不可)
- ・ AEC (エコーキャンセラー) および NFC (ノッチフィードバックサプレッサー) は使用できません
- ・ 2つの Media Stream Receiver が使用可能です。(ノーマルの Core では一つの Media Stream Receiver(Max 16ch)が使用可能でしたが最大 32ch の Media Stream Receiver が使用可能です。)

Audio Components

・ Audio Player コンポーネント

Audio Player コンポーネントは下記の仕様です。

- ・ ファイルフォーマット : wav / mp3 / FLAC
- ・ サンプルサイズ : 8, 16, 24, 32-bit
- ・ サンプルレート : 8kHz から 96kHz まで

※AAC フォーマットには対応していません。

Layout Components

・ Container コンポーネント

Container コンポーネントの中にパネルを追加できるようになりました。パネルは Schematic ページと似ています。パネル内及びパネル間で配線するためには信号に Tag を仕様する必要があります。パネルを追加すると Container コンポーネント内の上部にタブが追加されます。またタブの名前は自由に変更することができます。

Q-SYS Designer の機能の変更

• Schematic Library

- ”Schematic Library”は”Schematic Elements”と名称変更されました。
- Schematic Elements ではキーワード検索が可能になりました。
- Schematic Elements ではフローティングまたは上部、下部および側面にドッキングする機能が追加されました。
- Schematic Elements やプロパティなどのタブをドッキングして切り替えることができるようになりました。

• Schematic

ベクターグラフィックファイル (.svg) をドラッグ&ドロップで使用できるようになりました。

• Button

コンポーネントからドラッグされたボタンを透明にすることができるようになりました。コンポーネントからドラッグされたボタンを選択して塗りつぶしセレクトをクリックしてください。カラーチャートの下部にあるスライダを右側から左側に移動させると透明な塗りつぶしになります。

• User Components (User Library)

ユーザーライブラリー内にフォルダを作成することができるようになりました。

Q-SYS Administrator の新しい機能

• Softphones

- SRTP のサポートが追加されました。SRTP は RTP 音声・メディアペイロードを暗号化するためのプロトコルです。

Q-SYS Administrator の機能の変更

• Softphones

Version 5.3 より G.722、G.711 ulaw、G.711 alaw、G.726 32k、G.726 32k (AAL2)をサポートします。SPEEX などの以前のバージョンの CODEC はサポートから外れました。すべての IP-PBX は G.711 コーデックで動作することが保証されています。

下記の CODEC は動作保証対象外です。

G.726 40k	G.726 24k (AAL2)
G.726 24k	G.726 16k (AAL2)
G.726 16k	BroadVoice 16 (BV16)
GSM	BroadVoice 32 (BV32)
G.726 40k (AAL2)	Speex and RAW PCM Signed Linear

BETA Version の機能

Q-SYS Designer BETA バージョンの追加点。これらのコンポーネントは開発途上になるため機能は変更される可能性があります。

- Channel Group
- SPL/L eq Meter
- Timeline

発生する問題点

Core110f USB 3.0 Support

【問題点】

Core110fにおいて AV-to-USB Bridge を使用する際に USB3.0 は必要ありません。

【回避策】

USB2.0 のケーブルを使用してください。USB3.0 のケーブルを使用しなければならない場合は USB2.0 のポートを使用してください。

Remote Paging

【問題点】

リモートページングシナリオの Administrator Guest Permission 内の “External Control Protocol”を”NO”にすると Status が”Fault-Not Connected”になる。

【回避策】

Administrator Guest の”External Control Protocol”を”Yes”にする。

Network

【問題点】

TSC-3 は Core250i の LAN B/AUX から起動することが出来ません

【回避策】

TSC-3 は必ず LAN A ネットワークに接続する必要があります。LAN B/AUX ネットワークはサポートされていません

Network

【問題点】

TSC-3 と Core が異なるサブネット上にある場合、TSC-3 はロードするために起動しますが「Load Failed」と表示されエラーが繰り返されるようになります。

Core Redundancy – CobraNet

【問題点】

スタンバイ状態の Core の CobraNet カード (CCN32) は自動的に送受信を切り替える制御がされていません。CobraNet カード搭載 Core の 2 重化をペアとして使用する際に影響を与える可能性があります。

Core Redundancy – Clock Master

【問題点】

Core をリダンダントする場合プライマリ Core が最優先のクロックマスターになります。バックアップ Core は 2 番目の優先となります。プライマリ Core がロスした場合や再起動した場合は短いオーディオストリームのドロップアウトが発生します。

Version 5.2 からの変更点 (BUG FIX など)

・ Q-LAN

* Q-LAN ネットワークレイテンシーを従来の 2.5ms から 3.17ms へと変更されました。

・ AES67

* すべての Q-SYS Core で AES67 入出力ストリームをサポートしました。

* Dante ベースの AES67 ストリームを含む SAP/SDP を使用して任意の AES67 ストリームの検出および接続管理をサポートする自動モードを追加しました。

* SAP/SDP に対応していない AES67 ストリームに接続できるように手動モードを追加しました。

・ Inventory

* 新製品の Acoustic Design ペンダントラウドスピーカー AD-P4T / AD-P6T の Intrinsic Correction を追加しました。

・ POTS

* コールウェイトニング ID がサポートされるようになりました。

・ Softphone

* 最近の通話リストに記号が正しく表示されない問題を修正しました。

* 不要な VoIP コーデックを削除しました。

* "Late Offer" をサポートしました。

・ Q-SYS Designer

*設定可能な QoS パラメータを下記に追加しました。

File → Design Properties

*大きな画像を扱った際のメモリ使用量を改善しました。

・ LUA SCRIPT

***LUA SCRIPT Version 5.3.2**に移行しました。既存のスクリプトファイルを編集する場合は必ずバックアップを取得の上、変更してください。

*Script を更新するためのショートカット “Control + R” が追加されました。

*Inspector およびスクリプトコンポーネント内に使用率およびエラー数を表示できるようにしました。

*RapidJSON モジュールが追加されました。

*LUA スクリプトに開始ボタンと停止ボタンを追加しました。

*シリアル接続、TCP 接続への接続、再接続、データ、クローズド、エラー、タイムアウトコールバックを追加しました。

*UDP 接続にデータコールバックを追加しました。